

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2010.10.October Vol.14-1

住みやすい島根を よくする

長寿日本一の島根から

9月15日から9月定例県議会が開られ、いつものように今回も質問に立ちました。

百歳以上のお年寄りが人口10万人あたり74・37人とこれまで1位だった沖縄県を抜き日本一となりました。元氣な高齢者がたくさん住む島根の良さを全国に発信していくことが必要です。

この視点から今回は質問に立ちましたので報告します。

高年齢者支援について

問い 今回の長寿日本一となったことにどのような感想、考えをもたれたか。

知事 島根が住みやすい長寿社会になっっていることを示す一つの指標。県外にもそうした島根の魅力を伝えていくことも大事。県庁はもちろん、県民総力挙げて島根を住みやすくするために、協力、連携をさらに強化をするよう努力したい。

問い 高齢者の住宅の整備を進めている島根の高齢者向け優良賃貸住宅の整備を今後どのように取り組まれるのか。

土木部長 今年度から、土木部に健康福祉部との兼務職員を配置し、体制の強化を図り、今

長崎で離島振興の調査

7月28日から3日間、中山間地域・離島調査特別委員会で、離島を多く抱える長崎県の航路維持に向けての対応や離島振興の取り組みなどについて調査しました。

第一日目は長崎県庁で、社会資本整備総合交付金を活用した取り組みについて調査しました。船の更新や長寿命化への修理点検に要する資金を補助することで、浮いた財源を運賃の引き下げや割引に充て、利用者の利便を図る取り組みを行っています。

この社会資本整備総合交付

金とは、以前、話題になったガソリン税などに含まれる暫定税率を道路以外の財源にも充てるように一般財源化して設けられたものですが、これをうまく活用して長崎県が事業者に船の維持・更新を支援するものです。

この交付金の活用は、あくまでも道路建設に関連した予算として活用したいとする国の担当者と折衝を重ねたと話す長崎県の地域振興部西元次長の熱意に感心しました。

2日目は五島列島の五島市で公共交通活性化、観光についてのとりくみを調査しました。特に、注目したのは、国・県・



長崎港



長崎県庁で調査



本会議場で一般質問を行う

(裏へ)

(裏・下段囲みへ)

後、健康福祉部や市町村との連携を深め、国の基本方針に基づき、高齢者向け優良賃貸住宅の供給計画の見直しや民間事業者の整備支援について検討を行っていく。

♥介護サービスについて♥

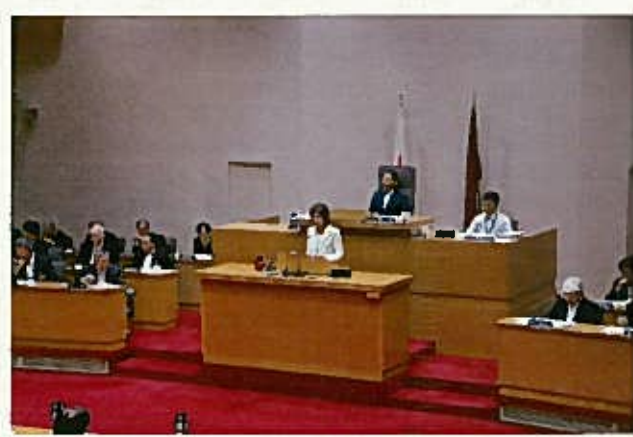
健康福祉部長 このサービスは、事業者にとっては介護報酬が低く、運営が難しいこと、利用者には、これまで馴染んできた他の在宅サービスを同時に利用できないことなどの課題がある。現在、国では、これらの課題を踏まえ、サービスのあり方や報酬について議論がされている。県としても、この動向は注視し、適切なサービスとなるように、今後とも必要に応じて国に要望していきたい。

健康福祉部長 本年度から、地域

医療再生計画に基づき看護職員確保対策を強化。福祉現場のニーズにも応えられる確保に努めていく。

♥療育手帳について♥

健康福祉部長 各都道府県では、療育手帳の発給の基準を設けて判定を行っている。判定基準の設け方は都道府県で多少異なる部分もあるが、根幹的な部分は実質的に大きな違いはない。一方で、近年、発達障がいなどへの対応を考えると、一部の県で、知的機能の遅れがない



9月定例議会

場合でも、医師の診断書等により手帳発給対象者とする例なども見られる。

健康福祉部長 本来、療育手帳の発給対象者の定め方については、法に基づいて全国的に統一した取り扱いがなされるべき。現在、国では、今後の障がい者制度のあり方について抜本的な見直し業務が精力的に行われている最中。障がいの定義についても検討が進められているので、県としては、その動向を見極めていきたい。

♥地域貢献型農業について♥

健康福祉部長 営農活動を基

本としつつ、幅広い地域貢献活動に取り組んでいく。地域の実情やニーズも踏まえ、必要に応じて健康福祉部と連携し引き続き支援したい。

市・研究機関・民間などが一緒になって取り組む長崎EV（電気自動車）& ITS（高度道路交通システム）プロジェクト、未来型ドライブ観光の実現を目指す事業です。電気自動車による静かで環境に配慮した交通とカーナビによる観光案内や地元のパールなどいろいろな活用法を研究するものです。一回の充電で80キロの走行、充電には家庭用で14時間掛かりますが、環境に配慮した交通システムの構築にこれから注目です。

3日目は天候悪く風もあり、予定していた軍艦島への渡航は中止し、観光船を運営するヤマサ海運の伊達秀則会長から軍艦島の説明を受けました。

この島は、元海底炭鉱があった



ヤマサ海運伊達秀則会長



軍艦島全景

た島で、周囲1200mの小さな島です。最盛期には五千人を超える人が住み、膨れ上がる人口に島を拡張して、高層住宅を建設しました。その島の形が軍艦に似ていることから、軍艦島と呼ばれるようになりました。

しかし、石炭の需要が減るとともに炭鉱は閉山になり、住民は新たな仕事を求めて離島し、今は無人島となっています。閉山後、島は立ち入り禁止となっていました。2009年に世界遺産暫定リストに、「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成資産の一つとして掲載された。新たな観光資源として脚光を浴びています。最近では、長崎市が上陸できるよう整備し、観光船事業者が航路を開き観光資源として活用しています。